

[成果情報名] 12 月前半開花の黄色寒小ギク有望系統「長崎小ギク3号」

[要約] 寒小ギクの有望系統「長崎小ギク3号」は、12 月前半までに出荷できる花色が黄色の小ギクである。側枝は立性、葉は小型・立性であり、出荷調整や花束加工がしやすい形状である。

[キーワード] 寒小ギク、黄色、フラワーフォーメーション

[担当] 長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

[代表連絡先] 電話（代表）0957-26-3330 （直通）0957-26-4326

[区分] 花き

[分類] 指導

[作成年度] 2014 年度

[背景・ねらい]

燃油や資材等生産コストの上昇により施設花きが厳しい状況にある中、本県では、近年、露地栽培による低コスト生産が可能な小ギクが注目されている。小ギクは家庭用仏花として盆や彼岸、年末を中心に年間を通じて堅調な需要がある。本県でも多くの品種が導入されているが、本県の気候や作型にあった品種が少ない、出荷調整に手間がかかる等の問題がある。このため、栽培特性や品質、草姿に優れ、本県の気候や作型に適合した本県オリジナルの小ギク品種を作型別（7～12 月出荷）、色別（白・赤・黄の3色）で育成することとし、ここでは、12 月前半出荷用黄色系統の選抜を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 寒小ギクの有望系統「長崎小ギク3号」は、長崎県農林技術開発センターの試験圃場において、当センター保有のかば色の秋小ギク選抜系統と地元在来の黄色寒小ギク（花粉親）との交配により得られた実生の中から 2011 年度に選抜した系統である。
2. 花色は黄色（RHS カラーチャート YELLOW GROUP 13-A）であり、管状花が開き始めるまでは緑芯である（図 1）。
3. 自然日長下において、7 月下旬に定植し、摘心、整枝（3 本/株）を行い栽培すると、当センターでは 12 月前半までに開花する（表 1）。
4. 寒小ギクの黄色品種である地元在来種、「金の祝」及び「金ほまれ」と比較すると開花時期が早い。また、無効側枝の発生が少なく、出荷調整がしやすい（表 1）。
5. フラワーフォーメーションは 2～3、側枝は立性、葉は小型・立性であり、出荷調整や花束に加工する際、処理しやすい形状である（表 1・図 2・図 3）。
6. 県切り花標準出荷規格において、最上位規格は切り花長 80cm、調整重 50g であるが、「長崎小ギク3号」は、切り花長 113～128cm、80cm 調整重 61～71g である（表 1）。
7. 花芽分化期以降の当センター旬別平均気温について、花芽分化期である 9 月下旬前後、2012 年度は平年値より低めに、2013 年度は高めに、2014 年度はわずかに高めに推移したが、開花日の変動幅は 21 日である（表 1・表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 品種化検討のため、2015 年度に県内の生産者圃場において大規模試作を行う。
2. 対照品種においても、その年の気象条件により、地元在来種で 29 日、「金の祝」で 22 日、開花日の変動が見られる。
3. 本系統と同時期に開花する白色、赤色の有望系統も選抜中である。

[具体的データ]

表1. 黄色寒小ギク有望系統「長崎小ギク3号」の開花特性

系統・ 品種名	試験 年度	試験 場所	開花日	切り	切り	頂花	有効	無効	80cm調整	花蕾			80cm 調整重	
				花長 (cm)	花重 (g)	下 節数	側枝 数 (本)	側枝 数 (本)	後無効 側枝数 (本)	数 (個)	花径 (mm)	茎径 (mm)		FF
長崎 小ギク 3号	2012	農技セ	11月22日	126	118	-	8.0	0.0	-	15	35	6.7	2.0	-
	2013	農技セ	12月13日	128	203	-	6.2	5.7	2.8	18	34	7.0	2.3	71
	2014	農技セ	12月3日	123	109	49	6.0	0.5	0.2	20	36	6.7	3.0	62
	2014	長崎市	11月23日	113	80	43	7.8	0.0	0.0	22	32	6.0	2.5	61
地元在来種 (花粉親) (対照)	2012	農技セ	11月29日	122	146	-	14.0	3.0	-	26	38	7.1	2.0	-
	2013	農技セ	12月28日	144	202	-	18.3	3.2	2.7	20	33	6.8	1.5	77
	2014	農技セ	12月21日	120	104	64	15.2	0.8	0.8	18	33	5.4	2.0	51
金の祝 (対照)	2013	農技セ	1月30日	126	131	-	3.8	4.2	2.8	16	32	7.0	3.0	61
	2014	農技セ	1月8日	90	59	36	3.7	2.7	1.3	15	34	5.1	3.0	33
金ほまれ(対照)	2014	農技セ	12月15日	105	102	37	4.5	4.7	4.7	23	39	6.7	3.0	61

注1) 2012年度は1本を調査 他は平均的な6本の調査による平均値 -は調査省略

注2) 有効側枝は切り花の先端から下30cmのところまでに発生した花蕾が付いた側枝 その下に発生した花蕾が付いた側枝が無効側枝

注3) 花蕾数は開花輪数と直径5mm以上の蕾数 花径は開花した頂花で測定 茎径は最下位の有効側枝の直下で測定

注4) FFはフラワーフォーメーション(図3参照)

注5) 80cm調整重は切り花を長さ80cmに調整し有効側枝以外と下葉(20cm)を除去して測定

注6) 試験場所の農技セは木柱平張施設 長崎市は小ギク生産者露地圃場(標高約300m)



図1. 「長崎小ギク3号」の開花の状況



図2. 「長崎小ギク3号」の草姿

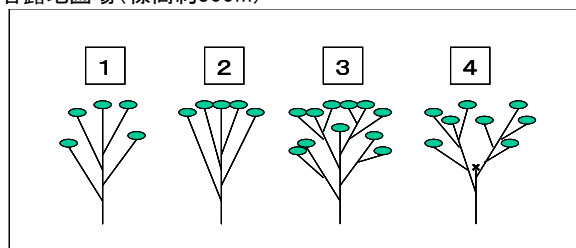


図3. 小ギクのフラワーフォーメーション

表2. 花芽分化期以降の旬別平均気温及び平年比 (°C)

年度	9月			10月		
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
2012	気温	24.0	20.6	19.6	17.6	15.9
	平年比	▲0.2	▲1.7	▲0.7	▲1.1	▲0.2
2013	気温	25.8	24.4	24.1	19.4	16.6
	平年比	1.6	2.1	3.8	0.7	0.5
2014	気温	22.7	22.6	21.2	18.2	17.7
	平年比	▲1.5	0.3	0.8	▲0.5	1.6
平年	24.2	22.3	20.3	18.7	16.1	

年度	11月			12月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
2012	気温	12.7	11.7	9.4	6.1	6.8	5.1
	平年比	▲1.8	▲0.8	▲1.1	▲2.5	▲0.4	▲1.4
2013	気温	15.8	10.5	9.1	7.7	6.7	5.4
	平年比	1.3	▲2.0	▲1.4	▲0.9	▲0.6	▲1.1
2014	気温	14.6	10.8	13.7	6.5	5.1	5.3
	平年比	0.1	▲1.7	3.2	▲2.1	▲2.2	▲1.2
平年	14.5	12.5	10.5	8.6	7.2	6.5	

注1) 長崎県農林技術開発センター

※耕種概要(農林技術開発センター)

栽培場所: 木柱平張ハウス(1mm目防虫ネット被覆)

施肥: 元肥のみ N15,P2O513,K2O13 kg/10a

定植間隔: 10×10cmの6目ネット2条植え

整枝: 3本/株

管理日程:

年度	挿し芽	定植	摘心	整枝
2012	7月6日	7月20日	7月27日	8月9日
2013	7月3日	7月24日	8月2日	8月19日
2014	7月4日	7月25日	8月1日	8月20日

[その他]

研究課題名: 長崎県オリジナル秋小ギク
品種の育成

予算区分: 県単

研究期間: 2011年度~2015年度

研究担当者: 竹邊丞市